

この名鑑は1932年10月末段階での、新聞紙法による雑誌（「新聞雑誌」と検閲行政上、新聞紙、通信紙のほぼ悉皆リストとして使える）と書誌である。本体が府県別に編成されているので、郷土史を研究したい場合に、戦前、特定府県でどんな雑誌新聞が実際に出ていたか、悉皆的リストで確認したい場合に使えるだろう。

名鑑では「題号、発行日又ハ発行回数、発行所名と住所、発行人又ハ社長、題号右肩ノ無ハ無保証」等の書誌的基本情報が分かる。特に「第三種郵便物認可年月日」は内務省への届出書には記載のない本書の独自情報である。

東京都の雑誌一覧表。表には題名、発行日、発行回数、発行所名と住所、発行人などが記載されている。例として「赤坂町會新報」や「赤坂町會新聞」などが挙げられている。

京都府の雑誌一覧表。表には題名、発行日、発行回数、発行所名と住所、発行人などが記載されている。例として「京華日報」や「京阪遊覧新聞」などが挙げられている。

岩手県の雑誌一覧表。表には題名、発行日、発行回数、発行所名と住所、発行人などが記載されている。例として「岩手日報」や「岩手新報」などが挙げられている。

鹿兒島県の雑誌一覧表。表には題名、発行日、発行回数、発行所名と住所、発行人などが記載されている。例として「鹿兒島新聞」や「鹿兒島時報」などが挙げられている。

広島県の雑誌一覧表。表には題名、発行日、発行回数、発行所名と住所、発行人などが記載されている。例として「広島新聞」や「広島時報」などが挙げられている。

推薦文 帝国日本の出版・言論空間のあり方をさししめすインデックス

長谷川一 (はせがわはじめ/明治学院大学文学部教授)

1932年発行の『全国新聞雑誌通信社名鑑』が、このたび『帝国日本雑誌新聞総カタログ—紙メディアの昭和戦前期1932年版』として復刻される。その意義は大きい。三点あげよう。第一は、その時代である。1932(昭和7)年とはどんな年だったのか。第一次上海事変がおき、満洲国がつけられ、5.15事件で犬養毅首相らが暗殺されて政党政治が終焉し、戸坂潤らが唯物論研究会を旗揚げし、警視庁特別高等課が特別高等警察部へ格上げされた。海外では、ドイツの総選挙でナチスが第一党となり、アメリカ大統領選挙でルーズベルトが選ばれた年でもある。つまり1932年は、世界が破局へと大きく舵を切った、文字どおり分岐点となった年だった。第二は、同書がその運命的な年における新聞・雑誌・通信紙の悉皆リストという点である。『全国新聞雑誌通信社名鑑』には、帝国日本の版図のどこでどんな新聞や雑誌がだれによって発行されていたのか、その書誌が仔細漏らさず網羅されている。内務省が検閲のために整備したりリストにもとづいているから、皮肉なことに、信頼度は折り紙つ

国声社は当時刊行されていた新聞雑誌全部のリストを、「ホワイトリスト」として刊行し、売ろうとしていたと考えていいだろう。これに載ってれば少なくとも実態のあるメディアというわけだ。

別巻 全国新聞雑誌通信社連盟 機関誌『国声』



操觚界の使命と 操觚界の便衣隊 臺北某通氏談

▲腹臑新聞屋は國家文獻の反逆者である…… ▲姓名と名刺刷りの體裁で業界是非の判断が出来る…… ▲一言で盡きる要件を半日も引張られては迷惑千萬だ……

▲操觚界の革新を根幹とする
▲所謂「操觚界の便衣隊」
▲社會人心に及ぼす新聞記事の影響を語る
▲操觚界に對する不平と希望を語る

▲新聞雑誌通信社の實體と革新的自覺運動に就て
▲銀行會社警察新聞社等専門家の忌憚ない意見を聴く……

▲第一回座談會……
▲第二回座談會……
▲第三回座談會……
▲第四回座談會……